

データでみる軽トラ市

(その13)

愛知大学 三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行
地域政策学部教授

軽トラ市相互の広域連携

5月号では、軽トラ市の拡大にはモデル化が必要であろうと提案した。モデル化には①基本となる個別軽トラ市モデル、②軽トラ市相互の広域連携モデル、③地域内における個別移動販売から軽トラ市までが連動する地域モデルが考えられる。今回は、②の軽トラ市

相互の広域連携についての取り組みを紹介したい。対象は、筆者が研究活動を行っている愛知県・静岡県・長野県の県境地域である。この地域を愛知県東三河地域の「三」、静岡県遠州地域の「遠」、長野県南信州地域の「南信」を合わせて、三遠南信地域と呼ぶ(図1)。

三遠南信地域では、地域ビジョンである

「三遠南信地域連携ビジョン」の重点プロジェクトの一つに軽トラ市を位置づけており、その推進の一助として「三遠南信軽トラ市ネットワーク会議」を設けている。以下に、三遠南信地域の軽トラ市の概要、三遠南信地域連携ビジョンと軽トラ市、三遠南信軽トラ市ネットワーク会議の活動について紹介してみたい。

○三遠南信地域の軽トラ市

三遠南信地域の拠点都市は、愛知県東三河地域の豊橋市、静岡県遠州地域の浜松市、長野県南信州地域の飯田市である。地域を一体で考えると、総人口の約250万人は県でみても14位、製造品(工業)出荷額は6位、



図1 三遠南信地域

農業産出額は7位と、中位県レベルの集積を持つ。特に工業は、自動車産業の集積が大きい。天竜川と豊川の流域圏として歴史の繋がりを持っており、県境を越える地域づくり運動が数十年にわたって続けられてきた。その一環として軽トラ市の広域連携が考えられ始めている。

さて、三遠南信地域の軽トラ市である。コロナ禍を除いて定期的に開催されているものが表1である。毎週開催（6～12月）が辰野軽トラ市、毎月開催が新城軽トラ市、掛川軽トラ市、森軽トラ市、季節開催が磐田軽トラ市など3ヵ所、年1～2回開催が浜松軽トラ市など4ヵ所である。表にはないが、その他にも実験的にスタートしているものもある。出店台数では、10台程度から100台規模までである。この様に、様々な開催形態があることが、広域連携とその広がりにも有効である。

図2は、開催数が多い軽トラ市の地図である。新城軽トラ市の出店車、磐田軽トラ市の出店車の調査から50kmが出店車の集まる範囲と想定されるため、50kmの円を描いてみた。勿論、出店車の種類によるのであるが、各軽トラ市の出店範囲が重複しており、相互協力の可能性があることが分かる。

○三遠南信地域連携ビジョンと軽トラ市

軽トラ市の広域連携を進める場合、広域的な地域ビジョンと連動することも必要なこと

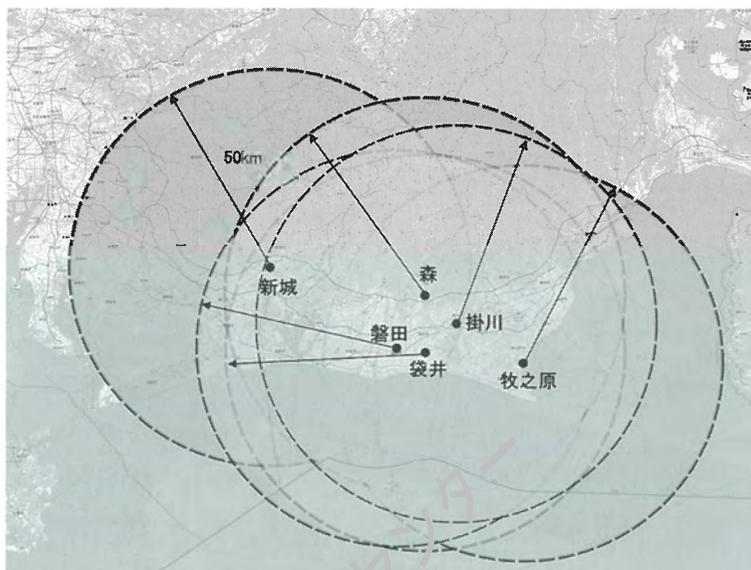


図2 主要軽トラ市の出店範囲（50km）

であろう。三遠南信地域の場合、それが「三遠南信地域連携ビジョン（以下、三遠南信ビジョン）」である。三遠南信地域は、県境を越える地域づくりなのだが、広域的な地域づくりでも県境を越える場合は、自治体の制度やマスメディアが異なったり、時には国の出先機関が異なったりと、障害が多い。県境地域と言うと特殊に聞こえるが、県境に接する市町村は667で、全市町村の4割ほどと、全国どこにでもあるが手のついていない地域づくりである。

三遠南信ビジョンを進めるために、三遠南信地域連携ビジョン推進会議（略称SENA）を組織している。構成機関は、39市町村、53商工会議所・商工会である。SENAの母体である「三遠南信サミット」は、年1回開催する全市町村長、経済団体の代表、市民代表、大学などの合同の場であり、2020年度で28回、根強い広域的な地域づくりである。

三遠南信ビジョンは、2008年に策定された



図3 ネットワーク会議(2020年2月)

村で完結した対応が困難であり、広域的な地域ビジョンを進めなくてはならない。軽トラ市の広域連携は、そうした地域ビジョンとも適合性が良いと筆者には思える。

○三遠南信軽トラ市ネットワーク会議の活動

三遠南信ビジョンでの重点プロジェクト化を受けて、三遠南信地域の軽トラ市の情報交換の場として2018年から設けたの

10年計画で、現在第2次ビジョンである。第2次ビジョンでは、重点プロジェクトの「地域の稼ぐ力強化プロジェクト」のなかで、リーサルビジネス(社会課題解決型ビジネス)の代表例として、軽トラ市の促進をあげている。人口減少下の地域では、一つの市町

が、「三遠南信軽トラ市ネットワーク会議」であり、事務局を愛知大学の本センターに置いている。構成メンバーは、表1の新城軽トラ市、磐田軽トラ市、掛川軽トラ市の運営者、SENA事務局(浜松市、豊橋市、飯田市)、本センターメンバーが基本であるが、

表1 三遠南信地域の軽トラ市

名称	開催場所	開催状況	出店台数
辰野町軽トラ市	長野県辰野町	毎週日曜日(6月~12月)	約10台
しんしろ軽トラ市のんほいルロット	愛知県新城市	毎月第4日曜日	約80台
ほいとも祭 豊川軽トラ市	愛知県豊川市	毎年10月	約40台
軽トラはままつ出世市	静岡県浜松市	毎年1回	約60台
二俣軽トラ市	静岡県浜松市	毎年4月	約30台
みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市	静岡県磐田市	毎年4回(3,5,9,12月)	約110台
いこうか、とよおか軽トラ市	静岡県磐田市	毎年7月頃	約40台
あさばの軽トラ市	静岡県袋井市	毎年3回	約20台
かけがわ けつトラ市	静岡県掛川市	毎月第3土曜日	約40台
森の健康Kトラ市	静岡県森町	毎月第4土曜日	約15台
まきのはらマキティー軽トラ市	静岡県牧之原市	毎年5~6回	約40台

適時その他の軽トラ市からの参加がある。図3は対面の会議風景であるが、現在は全てWeb会議で実施している。

活動内容としては、まずは現状報告と情報共有である。各軽トラ市の経験を共有することが最も重要である。特に、新規の開催者には必要な情報を得る機会と思える。運営主体も、商工会や行政、商店主、出店者など立場が異なることも有益である。特に、コロナ感染症対策には、この情報共有が欠かせない。最近では、軽トラ市先進地である宮崎県川南軽トラ市や、欧州在住の関係者から欧州の移動販売コロナ対応なども報告されており、興味深い。次に調査研究報告であり、これは大学の役割である。研究側から言えば、実態的な意見を貰える貴重な場である。学生の役割もあって、図4は学生が作成した三遠南信軽トラ市MAPである。この会議の初期段階で、来街者が他の軽トラ市を知る機会が少ないので共通MAPがあればよいという意見が出て、作成に至った。学生にとっては、全軽トラ市取材し、こうしたMAPを作成することは現場を知る機会であり、各軽トラ市や東京モーターショーでも配布した。そして最後が共同事業である。これはコロナ禍で現在止まっているが、全国軽トラ市への対応が

図4 三遠南信軽トラ市MAP

主である。相互連携についても様々なアイデアが出されており、コロナの収束を待たねばならないが、実現に至ることを期待している。

今回は、軽トラ市相互の広域連携について、その取り組みを紹介してみた。まだ、緒に就いたばかりであるが、比較的近隣の軽トラ市のネットワーク化、そして行政等の地域ビジョンとの連動は、軽トラ市の将来展開を構想する際に不可欠な視点だと思える。